



Osaka I-House Radio Club's booth at Ham Radio 2005 in Friedrichshafen as the very first non-commercial participant from Japan



山の頂の雪と一本の道



大統領官邸での記念写真



レイクキャビックの町並み



アイスランド・レポート

JR3MVF 三好京子

6月の北欧は夏の初めです。スカンジナビア YL クラブの第一回総会がアイスランドの首都レイクキャビックで開催されるので出席のため出かけました。関空からヘルシンキ→オスロ→レイクキャビックのルートでした。帰りにオスロに数日ステイするためにこのルートを選びました。オスロ→レイクキャビック間は、約2時間20分です。出発前のメールでの情報交換では、まず全ての物価が高いということだったのでオスロ空港で飲み物を買って入国しました。空港に到着してすぐ、辺りの景色にびっくりしました。空港から市内までバスで約一時間ですが、その間広大な花崗岩の中にある一本の道路をひたすら走り続けました。市内のど真ん中が宿泊所（ホテルとは呼べませんでした！）で三々五々と集まる各国から参加者と再会を喜びました。8カ国21名の女性ハムが集まりました。総会そのものは6月12日から15日までだったのですが、殆どの参加者が初めてのアイスランドを楽しむために8日から10日間滞在しました。その間特別局 TF3SYL の運用が可能でしたが、場所は宿泊所からタクシーで約15分離れたクラブ局でしたので、適当な時間帯に各自が運用するというスタイルでした。

一つの建物の中にアマチュア無線のクラブの部屋やモータバイクの部屋等いろいろなのが雑居していました。ミーティングルームは共用でした。アメリカから参加のジニーが「私はバイクに乗っているのだ」と言うと、ある日約15台のバイクがこの建物の周りに集まり、彼女は大喜びでした。一つの建物を有効に活用して相互の連絡もうまく取れているようでした。

特に今回のサプライズは大統領との会見でした。約束時間5分前位に皆が緊張して待っていると官邸のドアが静かに開き、ゲストブックにサインをして部屋に入り、シャンペンと小さなクッキーをいただきながら大統領のお出ましを待ちました。にこやかに現れた大統領はとても背が高くハンサムでした！まず官邸の中の各部屋の展示物を拝見した後、会見が開かれました。歓迎の挨拶と



TF3SYLのシャックで、
TF3VB WA6UVF JR3MVF 2015.06.02

ともに、とてもフランクにおしゃべりが始まりました。最初こそ少し緊張気味だった参加者も大統領の素敵な笑顔につられて、いつものおしゃべりなハムになっていました。どんどんとアマチュア無線の素晴らしさのアピールをしました。大統領も非常に関心を持って質問を得た質問をされたのには感心しました。最後には有名人もたくさんライセンスを持っているので大統領もぜひ！ということ



間欠泉

ことで締めくくりました。官邸を去る時の参加者一同のなんともいえない満足感と素敵な笑顔を忘れる事ができません。その他たくさんのTFのOM方ともアイボール QSO の機会がありました。中でも JA3IG、Yuu さんのお友達である TF3DX さんとも連絡がとれ、アイスランドでの最後の夜を自宅に招待していただき美しい奥様を交えて楽しい数時間を過ごしました。CW をメインに運用されている有名な DX サーで自宅にはたくさんの自作の機器が置かれていました。それを楽しげに説明していただいたり、写真を拝見したりして、真っ赤な太陽が

上がっている真夜中までおじゃましました。帰りには宿泊所まで奥様と二人で送ってくださり、人の輪の広がり素晴らしさ感じました。

アイスランドは2000万年前に一つだったユーラシア大陸プレートとアメリカ大陸プレートが、離れていく時にその裂け目から出るマグマによって海の底からできた島だそうです。無数の地震と火山活動によって今でもその姿を島全体にとどめています。山の頂に残る万年雪、吹きでる間欠泉、大きな亀裂が無数に残る岩石の地面、ところどころに夏を迎えて咲く花々、ブルーラグーンに象徴される温泉、豊かな水量そして近代都市レイクキャビック！ この島はいろいろな顔を同時に持っていました。白夜と共に睡眠不足の原因だった一晩中鳴り響いた音楽と道路いっぱい溢れた週末の若者の喧騒も、今はとても懐かしく思い出されます。

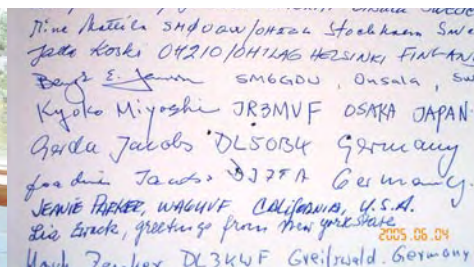
オスロのレポートは次回に書きたいと思います



TFのOM's(クラブのミーティングルームにて)



TF3DX

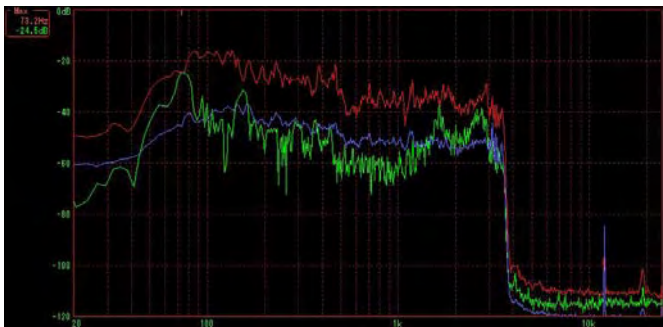


通信の了解度向上と SSB 音声スペクトラムの関係

JA3USA 島本正敬

Hi-Fi SSB という言葉を最近よく耳にするようになりました。SSB の音質についての論議は目新しいものではありませんが、これまで殆どの SSB 送信機はフィルタータイプでしたから、良くても 300 ~ 2700Hz 程度の範囲の音声についてのみという限定つきの評価でした。それが、DSP の登場で殆ど 0 ~ 3000Hz 全域の音声を SSB で送ることが可能になりました。

声帯で発生される音の基本周波数は 100Hz 付近。その高調波を口腔内や胸で共振させて 1000Hz 辺りを中心としたものを声として聞いています。実際にフラットな周波数特性を持つマイクから入力した音声のスペクトラムを見ると、声帯の基本周波数である 100Hz 辺りに比較的強いエネルギーがあることが判ります。以前から、パイルアップやノイズの中で聞き易い信号が 600Hz 以下のエネルギーをたっぷり含んでいることに気付いて注目してきましたが、どうやらこの基本波にも関係しているのでは？と考えるようになりました。IC756Pro や IC7800 のような DSP で SSB を発生する送信機を使えば容易に声帯の基本波を SSB に含ませることができるようになりますから、本当に 600Hz 以下の音域が無線の了解度向上に役立つかどうかを試してみることにしました。マイクの周波数特性も大きな影響を与えますので、AKG D112 という 100Hz 辺りに緩やかなピークを持つマイクを準備。それに接続したマイクアンプ代わりのアナログミキサーの出力を録音用のデジタルプロセッサで帯域別の補正を行い、デジタルのまま IC-7800 の SPDIF 入力端子に供給しました。すると、低域が極端に出ている感じの音になりましたが、低域が澄んだ音のためか、それ程違和感のない音になりました。この状態で 14MHz で送信し、東京で受信した音声信号のスペクトラムが下図です。50Hz 位から 2900Hz まで出ていることが判ります。この状態での DX QSO は未だ多くありませんが、パイルアップやノイズの中で、かなり有効に作動しているような気がしています。その結果はまた改めてご報告しようと思います。



一枚の写真から

JA3AER 荒川 泰蔵

SV8/GWORTA/P の巻



英国滞在中 1994 年 8 月の休暇に XYL と共に日本旅行社の「アテネとエーゲ海」のツアーに参加、ICOM のトランシーバーをトランクに詰めて出かけ、アテネ (SV1) とミコノス島 (SV8)、それにロードス島 (SV5) から QRV した。この運用も英国の免許に CEPT の証明があるため、CEPT 加盟国であるギリシャでの短期間の運用には許可手続きの必要がなかった。写真はミコノス島の風景であるが、ホテルは風車小屋の後方にあり、そこから SV8/GWORTA/P で QRV した。ホテルの従業員に手伝ってもらって、裏庭に張ったダイポールアンテナで 14MHz を運用したが、残念ながらコンディションの良くない時期でヨーロッパとしか QSO できなかった。QSL カードもそのミコノス島でエーゲ海を撮影した写真からである。



SkyPhoto Collection by JA3USA



the Asia Pacific DX Convention

November 18 - 20
at Osaka Int'l House by J13ZAG

Newsletter

<http://ja3.net/ihouse/html/nl.html>
会報を自由にダウンロードすることができます

Web: <http://ja3.net/ihouse>

Rollcall

Every Saturday 00:00UTC @14.155MHz

Monthly meeting

at International House Osaka
on the 2nd Friday of each month